

すなお

平成31年2月号



明治二十七年二月十四日

おやのことば
互い扶け合いやと、
口で言うばかりなら、
扶け合いとは言えようまい。
真の心からの互い扶け合いは
一度に受け取る。

今年三日に親会長さんの一年祭をつとめさせて頂きました。当日は大勢の方々に参加して頂き、あちこちよりお供え物も届きました。直会の最後に親奥さんが親会長さんの日記を読んでもくれました。その後、日記を借りて最初の二、三頁を読ませて頂くと（三枝ちゃん、加代ちゃん、けいちゃん、きよちゃん達子供にお話取り次がせて頂く。本当に！お礼のみである。すばらしい今治。何とか根をおろしたく念じつつ第一日を終る。）とありました。私も宇和島で布教をさせて頂いた経験はあるが、子供に直接神様のお話をしようという思いを持ったことはなかった。もちろん、信仰をもつ親の子供達には是非伝えたいと努力はしましたが、この日記からは何でも誰にでも教祖の教えを伝えたいというなりふり構わず突き進んでいた姿が眼に浮かびます。さあ、私達も今年は教えを伝えるために突き進んで行きましょう。

会長

教会ニュース②

中和大教会創立130周年祭に向かう御用の一つとして「おたすけお願いカード」の活用が発表されました。教会では以前から独自に作成したカードで進めて来ましたが、この機会に大教会で頂いたカードに切り替えたいと思います。今月の月次祭以降に配布しますので、どんどん活用して下さい。

おたすけお願いカード		親神様・教祖へ	
年 月 日			
教会		さんの	
名前			
身元・事情に苦しんでおられる方には		() が	
1 まずは、その治まりを神様にお願いさせて頂きましょう			
2 身元（病氣）の方には、おさづけを取り次がせて頂きましょう			
3 事情（悩み）の方には、寄り添って耳を傾けさせて頂きましょう			
4 そして、心の向きが変わってもらえるようにお話をさせて頂きましょう			
		ご守護頂けますようお願い申し上げます	
		※ このカードの個人情報については決して公表致しません	

瀬戸路分教会エコプロジェクト ～太陽光発電状況～

1月17日検針で1145kWh発電し、44,517円の売電金額となりました。

累計91,620kWh、3,590,071円の総売電金額となりました。

すなお (立教182年2月号)

通巻 No.703
発行所 天理教瀬戸路分教会
794-0007 今治市近見町4-5-10
☎ 0898-23-5004
FAX 0898-23-5123
発行日 2019.2.16
責任者 二宮英治

一般に年祭や法事は故人を偲ぶという思いから、厳かにつとめられることも多いと思います。しかし何時も親会長さんは、余興の場になると一番にマイクをもって、皆を勇ませるために陽気に歌っていました。陽気に勇んでつとめさせてもらう、これはきっと親会長さんの思いに叶い、喜んでもらえると思いました。

親会長さんは「やるかやらんか、なら、やる！やるなら一所懸命、真実を込めて力の限りやる！」この言葉を口癖のように言っておられたのは、皆さんも御存知のことと思います。よし！1年祭は御恩報じと思って、精一杯やらしてもらおうと心に決めて準備を始めました。親会長さんの思い出話を話してもらおう人。催し物の出演、各所の準備やスタッフ、どこも皆快く一発了解を貰いました。親会長さんのお徳を感じます。

年祭当日には、親会長さんへの思いをそれぞれが胸に、真剣な祭儀式、笑顔の記念撮影、和気あいあいの直会、ご報告のお墓参りと、最初の目標通り、陽気に勇んで思い込めてつとめさせて頂くことができました。参列された方々の口から「良かった、今日は良かった、本当に良かったね」と喜びの声が聞け、大変嬉しく思いました。

どんなことにも真実を込めてつとめなさいと、時には手本を示し、時には厳しく、時には繰り返し繰り返し教えて頂きました。私たちは親会長さんの一番弟子です。日記に記された熱い思いに続けと、自分たちもやりますと進めば、きっとあの写真のお顔のように、にこっと笑って「やったね！」と声をかけて下さることでしょう。

最後になりましたが、皆様1年祭の上には、誠真実を本当に有難うございました。

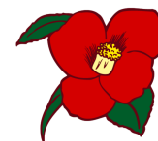
教会ニュース①

初代会長一年祭報告

今月3日（日）初代会長二宮勝己の一年祭が葛城の会長様祭主のもと、教会において執行されました。67名の参列を頂き、祭儀の後は会館においてさまざまな出し物をして和やかな直会となりました。最後は初代会長様の布教当初の日記紹介があり、初代会長様の熱き思いを感じさせて頂きました。

婦人会創立110周年 日々の理御供 報告

1月には58,500円を上級葛城へ運ばせて頂きました。2020年4月までつとめさせて頂きますので、今年も引き続きよろしくお願い申し上げます。



「親会長様1年祭を終えて」

葛城分教会会長 二宮秀人

親会長様の一年祭を終えて、「時間」ということを考える。父親は常々、「私は115歳まで生きる」と話していた。実際の出直し年齢は85歳だったが、やはり父親は115歳を生きたのではないかと思う。

同じ85年を生きたとしても、ただ漫然と日々を過ごした人と、一日一日を濃く大切に生きた人とでは、その「密度」には、何倍も違いが生まれてくるのではないだろうか？

例えば、人生を「50年」で終えたとしても、その人が他の人の何倍もの密度で人生を生きたとしたら、その人生は、「100年」にも「150年」にも値する人生になるだろう。父親は、時間の長さの「115歳」ではなく、時間の密度の「115歳」を生きたのかもしれないと思う。

では、密度のある日々を送るにはどうしたらいいのだろうか？あるテレビドラマのワンシーンにヒントを得た。ある企業で、権力闘争の渦中に居る社長さんの言葉だ。

「宇宙開発をしようとしている我々には、ちっぽけなジェラシーや、権力闘争等に一秒たりともさく時間はない」

限られた私達の人生、その日々の中で不平や不満を言って費やす時間は、本当は一秒たりともないはずだろう。そんなことに、時間を費やすよりも、自分の目標と定めた山に登るにはどうしたらいいのか、思案をめぐらし実行することが、今日一日を濃いものにする。

「布教日誌」を聞かせて頂いた。自分の生死を賭けて神に向かう時、今まで見えなかった世界が見えるに違いない。「私は幸せだ！」と言い切る濃い日々を生きよう。残された時間はそんなに長くない。



「親会長様1年祭に思う」

大洋輝分教会会長 二宮洋志朗

ほんの少し前に50日祭だったのに、もう1年。早いなーというのが実感です。1年祭を執り行うについて、親奥さんの思いを聞きました。親会長さんが生前に書き残していた、日めくりカレンダーを作成して記念品にしたいことや、親会長さんの日記を、皆さんに読んで聞いてもらいたいこと。そして陽気に勇んでつとめ、皆さんのこれから先の歩みに繋がる年祭にしたいとのことでした。

→ 次ページへ